指導計画書

令和５年度　入学生用
柔道整復トレーナー学科
【令和５年度履修科目】

今村学園ライセンスアカデミー

	教育内容	授業科目	規程単位	規定時間	実務経験のある講師による授業	
					該当	時間数
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活	栄養学	2	30		
		臨床心理学	2	30		
		経済学	2	30		
		保健体育	2	30		
		生物学	2	30		
		外国語（英語）	2	30		
		介護概論	2	30		
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖学Ⅰ	2	60		
		解剖学Ⅱ	2	60		
		解剖学Ⅲ	1	30		
		生理学Ⅰ	2	60		
		生理学Ⅱ	2	60		
		生理学Ⅲ	2	30		
		運動学Ⅰ	2	60		
		運動学Ⅱ	2	60		
	疾病と傷害	病理学概論	2	60		
		衛生学	1	30		
		一般臨床医学Ⅰ	1	30		
		一般臨床医学Ⅱ	1	30		
		外科学概論Ⅰ	1	30		
		外科学概論Ⅱ	1	30		
		整形外科学	2	60		
		リハビリテーション医学	2	60		
	柔道整復術の適応	柔道整復術の適応	2	30		
	保健医療福祉と 柔道整復の理念	公衆衛生学	1	30		
		関係法規	2	60		
		柔道Ⅰ	2	60		
		柔道Ⅱ	2	60		
		柔道Ⅲ	1	30		
	社会保障制度	社会保障制度	1	30		
専門分野	基礎柔道整復学	基礎柔道整復学Ⅰ	2	60	○	60
		基礎柔道整復学Ⅱ	2	60	○	60
		基礎柔道整復学Ⅲ	2	60	○	60
		基礎柔道整復学Ⅳ	2	60	○	60
		基礎柔道整復学Ⅴ	2	60		
	臨床柔道整復学	臨床柔道整復学Ⅰ	2	60	○	60
		臨床柔道整復学Ⅱ	2	60		
		臨床柔道整復学Ⅲ	2	60		
		臨床柔道整復学Ⅳ	2	60		
		臨床柔道整復学Ⅴ	2	60		
		臨床柔道整復学Ⅵ	2	60		
		臨床柔道整復学Ⅶ	2	60		
		臨床柔道整復学Ⅷ	1	30		
		臨床柔道整復学Ⅸ	2	30		
	柔道整復実技	柔道整復実技Ⅰ	2	60	○	60
		柔道整復実技Ⅱ	2	60		
		柔道整復実技Ⅲ	2	60		
		柔道整復実技Ⅳ	2	60		
		柔道整復実技Ⅴ	2	60		
		柔道整復実技Ⅵ	2	60		
		柔道整復実技Ⅶ	2	60		
		柔道整復実技Ⅷ	2	60		
		柔道整復実技Ⅸ	1	30		
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	2	90	○	90
		臨床実習Ⅱ	2	90		
選択必須科目	基礎医学特論	基礎医学特論	2	60		
	総合演習	総合演習Ⅰ	1	30		
		総合演習Ⅱ	1	30		
		総合演習Ⅲ	1	30		
	トレーニング指導論	トレーニング指導論Ⅰ	2	60		
		トレーニング指導論Ⅱ	2	60		
合計			108	3,000		450 時間

指導計画書

教科名	栄養学
対象者	柔道整復トレーナー学科1年
期　間	後期　令和5年10月1日 ～ 令和6年3月31日
実務経験のある講師による指導	（ 全て ・ 一部 ・ なし ・ その他（　　））
講師名	久永　まゆみ

指導内容及び指導方法

1. 指導の方法

講義及び演習とする。

2. 授業の概要・目標・到達目標

授業の概要	運動時の消化吸収・エネルギー代謝
健康と栄養・食生活	アスリートの減量と増量
食品の成分と機能	発育発達時の運動と食
からだのしくみと栄養素のはたらき	貧血の原因と対策
栄養状態の評価（栄養アセスメント）	試合期・遠征中の食生活・栄養管理
食事摂取基準と私たちの食生活	
アスリートに必要な栄養素	

3. 授業計画（予定）

第1回	栄養と健康・食生活
第2回	食品の成分と機能（3大栄養素）
第3回	食品の成分と機能（ビタミン、ミネラル）
第4回	食品の成分と機能（体内の水分、食品の機能性）
第5回	からだのしくみと消化器の機能
第6回	主要な栄養素の消化吸収
第7回	主要な栄養素のエネルギー代謝
第8回	栄養状態の評価（栄養アセスメント）
第9回	食事摂取基準と私たちの食生活
第10回	アスリートに必要な栄養素
第11回	運動時の消化吸収・エネルギー代謝
第12回	アスリートの減量と増量
第13回	発育発達時の運動と食
第14回	貧血の原因と対策
第15回	試合期・遠征中の食生活・栄養管理

修了認定の基準

・原則として、履修時間3分の2以上の出席時数をもって単位認定試験を受ける資格を与える。
・単位認定試験（学科・実技試験）、授業・実験・実習態度、および与えられた課題の合格をもって所定の単位を与える。
・原則として、単位認定試験の合格点は60点以上とする。
・不合格の場合は、期日を定めて再試験を行う。
・病気その他正当と認められる理由により、試験を受けられなかった場合は、追試験によって単位の認定を受けることができる。
この試験の点数は、実点の8割に計算される。

評価方法

・単位認定試験（学科・実技試験）の得点、授業・実験・実習態度、課題の提出内容を対象として評価し、90点以上を「秀」、80-89点を「優」、70-79点を「良」、60-69点を「可」、59点以下を「不可」（不合格）とする。
・GPA算出に当たっては、秀＝4.0、優＝3.0、良＝2.0、可＝1.0、不可＝0.0とする。

使用教科書名

スポーツ栄養学（化学同人）

指導計画書

教 科 名	臨床心理学
対 象 者	柔道整復トレーナー学科1年
期　　間	前期　　令和5年4月1日　～　令和5年9月30日
実務経験のある講師による指導	（ 全て ・ 一部 ・ なし ・ その他（　　））
講 師 名	横山　春彦

指導内容及び指導方法

1. 指導の方法

講義及び演習とする。

2. 授業の概要・目標・到達目標

本授業の目的は心理学そのものに対して理解を深めることであり、
その理解に基づき、臨床の問題等に関する見識を養うことにある。
以上の目的を達成するため、以下のような内容につき、わかりやすく講義を行う。

3. 授業計画（予定）

第1回	ヒト・動物の行動①、オペラント条件づけ①、専門学校での学び①、身近な環境①
第2回	ヒト・動物の行動②、オペラント条件づけ②、専門学校での学び②、身近な環境②
第3回	ヒト・動物の行動③、オペラント条件づけ③、専門学校での学び③、身近な環境③
第4回	ヒト・動物の行動④、オペラント条件づけ④、専門学校での学び④、身近な環境④
第5回	ヒト・動物の行動⑤、古典的条件づけ、専門学校での学び⑤、身近な環境⑤
第6回	ヒト・動物の行動⑥、聴覚のしくみ、専門学校での学び⑥、身近な環境⑥
第7回	ヒト・動物の行動⑦、視覚のしくみ、専門学校での学び⑦、身近な環境⑦
第8回	ヒト・動物の行動⑧、味覚と嗅覚のしくみ、専門学校での学び⑧、身近な環境⑧
第9回	ヒト・動物の行動⑨、皮膚感覚のしくみ、専門学校での学び⑨、身近な環境⑨
第10回	ヒト・動物の行動⑩、視覚（幾何学的錯視①）、専門学校での学び⑩、身近な環境⑩
第11回	ヒト・動物の行動⑪、視覚（幾何学的錯視②）、専門学校での学び⑪、身近な環境⑪
第12回	ヒト・動物の行動⑫、視覚（ゲシュタルト要因）、専門学校での学び⑫、身近な環境⑫
第13回	ヒト・動物の行動⑬、視覚（色覚①）、専門学校での学び⑬、身近な環境⑬
第14回	ヒト・動物の行動⑭、視覚（色覚②）、専門学校での学び⑭、身近な環境⑭
第15回	ヒト・動物の行動⑮、Y染色体、専門学校での学び⑮、身近な環境⑮

修 了 認 定 の 基 準

・原則として、履修時間3分の2以上の出席時数をもって単位認定試験を受ける資格を与える。
・単位認定試験（学科・実技試験）、授業・実験・実習態度、および与えられた課題の合格をもって所定の単位を与える。
・原則として、単位認定試験の合格点は60点以上とする。
・不合格の場合は、期日を定めて再試験を行う。
・病気その他正当と認められる理由により、試験を受けられなかった場合は、追試験によって単位の認定を受けることができる。
この試験の点数は、実点の8割に計算される。

評 価 方 法

・単位認定試験（学科・実技試験）の得点、授業・実験・実習態度、課題の提出内容を対象として評価し、90点以上を「秀」、
80-89点を「優」、70-79点を「良」、60-69点を「可」、59点以下を「不可」（不合格）とする。
・GPA算出に当たっては、秀＝4.0、優＝3.0、良＝2.0、可＝1.0、不可＝0.0とする。

使 用 教 科 書 名

教科書：使用しない
参考書等：適宜紹介

指導計画書

教 科 名	経済学
対 象 者	柔道整復トレーナー学科1年
期　　間	前期　　令和5年4月1日　～　令和5年9月30日
実務経験のある講師による指導	（ 全て ・ 一部 ・ なし ） その他（　　））
講 師 名	植松　寧治

指導内容及び指導方法

1. 指導の方法

講義及び演習とする。

2. 授業の概要・目標・到達目標

授業の概要

(1)経済の発達史
（農業社会・工業社会・脱工業社会、日本・欧米）
(2)経済学の系譜（スミス・ケインズ）
(3)金融のしくみ（中央銀行・金融政策など）
(4)財政のしくみ（租税制度・国家予算）
(5)経済成長と景気変動（金融政策・財政政策・規制緩和）
(6)国際経済のしくみ（国際収支・基軸通貨・外国為替相場など）
(7)日本経済の課題（財政再建・少子化高齢化・グローバル化・格差社会・消費者行動・技術立国）

目標・到達目標

(1)国民経済のしくみを理解させる。
(2)国内経済・国際経済の事象に対して興味・関心を持たせる。
(3)国内経済・国際経済の事象や動向を理解する資質を養う。

3. 授業計画（予定）

第1回	経済の発達史（産業論）
第2回	経済の発達史（日本経済）
第3回	経済の発達史（欧米経済）
第4回	経済学の系譜（スミスとケインズ）
第5回	金融のしくみ（中央銀行）
第6回	財政のしくみ（租税制度）
第7回	財政のしくみ（国家予算・財政政策）
第8回	経済成長と景気変動
第9回	国際経済のしくみ（基軸通貨・外国為替制度）
第10回	実体経済と金融経済
第11回	グローバル化の進展と保護主義の台頭
第12回	技術革新と産業社会の変化
第13回	消費者行動の変化と産業社会の変化
第14回	地域経済の課題
第15回	日本経済の課題

修 了 認 定 の 基 準

・原則として、履修時間3分の2以上の出席時数をもって単位認定試験を受ける資格を与える。
・単位認定試験（学科・実技試験）、授業・実験・実習態度、および与えられた課題の合格をもって所定の単位を与える。
・原則として、単位認定試験の合格点は60点以上とする。
・不合格の場合は、期日を定めて再試験を行う。
・病気その他正当と認められる理由により、試験を受けられなかった場合は、追試験によって単位の認定を受けることができる。
この試験の点数は、実点の8割に計算される。

評 価 方 法

・単位認定試験（学科・実技試験）の得点、授業・実験・実習態度、課題の提出内容を対象として評価し、90点以上を「秀」、80-89点を「優」、70-79点を「良」、60-69点を「可」、59点以下を「不可」（不合格）とする。
・GPA算出に当たっては、秀＝4.0、優＝3.0、良＝2.0、可＝1.0、不可＝0.0とする。

使 用 教 科 書 名

適宜教材教材プリント配付

指導計画書

教 科 名	保健体育
対 象 者	柔道整復トレーナー学科1年
期　　間	後期　　令和5年10月1日　～　令和6年3月31日
実務経験のある講師による指導	（ 全て ・ 一部 ・ なし ・ その他（　　））
講 師 名	高岡　綾子

指導内容及び指導方法

1. 指導の方法

講義及び演習、実技とする。

2. 授業の概要・目標・到達目標

目標・到達目標

1.自身の健康維持に必要なコンディショニングの方法を学習し，実践できるようにする.
2.生涯スポーツとしてのエアロビックの理論と実技を学習し，それを学外で発表する.
3.特定の対象者に対する運動療法について，理論及び実技を通して理解を深める（妊娠期）

授業の概要

コンディショニング，エアロビック，妊娠期における運動療法についてそれぞれ，教科書や資料，視聴覚機器などを利用して理論背景を学習し，実技によって理解を深め習得する.

3. 授業計画(予定)

第1回	・オリエンテーション　講師自己紹介　授業及び評価方法の説明　他（教室）
第2回	・エアロビック① スローエアロビックの基礎理論と実技(椅子に座って行う)(教室)
第3回	・エアロビック②スローエアロビックの基本練習・発表演技の動きの説明(柔道場)
第4回	・エアロビック③ スローエアロビック 発表演技の動きの伝達 ・コンディショニング① モニタリング 自分のカラダを史って今後の学習で活用する(柔道場)教科書正しい体幹トレーニング
第5回	・エアロビック④スローエアロビック・発表会に向けて動きの定着練習(1) ・コンディショニング② 下肢のコンディショニング(柔道場)
第6回	・エアロビック⑤スローエアロビック ・発表会に向けて動きの定着練習(2) ・コンディショニング③上肢のコンディショニング(柔道場)
第7回	・エアロビック⑥スローエアロビック・発表会に向けて動きの質を上げる ・コンディショニング③ コンディショニングの理論背景をまとめて筆記テストの傾向と対策(柔道場)
第8回	・エアロビック⑦スローエアロビック・発表会に向けて演技を仕上げる（柔道場）
第9回	フェスティバルリハーサル及び学外発表会についてのオリエンテーション(柔道場)
第10回	・かごしま体操フェスティバル出場＜感想文を提出＞(鹿児島県立体育館)
第11回	・コンディショニング⑥　体幹のコンディショニング　呼吸のトレーニング(柔道場)
第12回	・コンディショニング⑦総復習①(柔道場)
第13回	・コンディショニング⑧総復習②(柔道場)
第14回	・妊娠期における運動療法①理論　現代の妊婦における健康上の問題点と運動の意義と効果（教室）
第15回	・妊娠期における運動療法②実技　病院等におけるグループ活動と自宅でパートナーと行う運動

修 了 認 定 の 基 準

・原則として、履修時間3分の2以上の出席時数をもって単位認定試験を受ける資格を与える。
・単位認定試験(学科・実技試験)、授業・実験・実習態度、および与えられた課題の合格をもって所定の単位を与える。
・原則として、単位認定試験の合格点は60点以上とする。
・不合格の場合は、期日を定めて再試験を行う。
・病気その他正当と認められる理由により、試験を受けられなかった場合は、追試験によって単位の認定を受けることができる。
この試験の点数は、実点の8割に計算される。

評 価 方 法

・単位認定試験(学科・実技試験)の得点、授業・実験・実習態度、課題の提出内容を対象として評価し、90点以上を「秀」、80-89点を「優」、70-79点を「良」、60-69点を「可」、59点以下を「不可」(不合格)とする。
・GPA算出に当たっては、秀＝4.0、優＝3.0、良＝2.0、可＝1.0、不可＝0.0とする。

使 用 教 科 書 名

指導計画書

教科名	生物学
対象者	柔道整復トレーナー学科1年
期　間	後期　令和5年10月1日 ～ 令和6年3月31日
実務経験のある講師による指導	（ 全て ・ 一部 ・ なし ・ その他（　　））
講師名	塚原　潤三

指導内容及び指導方法

1. 指導の方法

講義及び演習とする。

2. 授業の概要・目標・到達目標

目標・到達目標

柔道整復師を目指す教育カリキュラムの中で、生物学はもっとも基礎的な分野である。本講義の目的として、生物学分野の学習内容を十分理解することにより、より専門的、発展的な諸科目への学習準備がなされることが期待される。また、生物学は20世紀から21世紀初頭にかけてもっとも発展した学問分野の一つであり、講義内容のなかに、この最先端の研究内容についても分かりやすく取り上げて、学問分野の発展の息吹を学びとることを目的とする。

授業の概要

(1)生命体の作りとはたらき　生物を構成する単位としての細胞の基本的構造と機能を理解する。

(2)生体維持のエネルギー　生体内のエネルギー転換機構について学び、同化作用と異化作用について理解する。

(3)細胞の増殖とからだの成り立ち　細胞分裂・増殖の仕組みについて学習し、多細胞生物における組織・器官の成り立ちについて理解する。

(4)生殖と発生　多細胞生物の生殖、受精、発生の仕組みを理解する。また、発生学から発展した再生医療科学の最新の知識を理解する。

(5)情報の伝達と効果器のはたらき　多細胞生物での個体内における情報伝達、神経中枢における情報処理、および効果器での情報発現作用の仕組みを理解する。

3. 授業計画（予定）

第1回	生物学の発展概略
第2回	細胞の基本構造と機能-1
第3回	細胞の基本構造と機能-2
第4回	生体内のエネルギー転換-1
第5回	生体内のエネルギー転換-2
第6回	細胞分裂・増殖のしくみ
第7回	減数分裂のしくみ
第8回	生殖細胞形成のしくみ
第9回	生殖：受精
第10回	発生と分化のしくみ
第11回	再生医療への道
第12回	情報伝達のしくみ
第13回	神経中枢の構造と機能
第14回	筋肉および骨組織の構造と機能
第15回	講義のまとめ

修了認定の基準

・原則として、履修時間3分の2以上の出席時数をもって単位認定試験を受ける資格を与える。

・単位認定試験（学科・実技試験）、授業・実験・実習態度、および与えられた課題の合格をもって所定の単位を与える。

・原則として、単位認定試験の合格点は60点以上とする。

・不合格の場合は、期日を定めて再試験を行う。

・病気その他正当と認められる理由により、試験を受けられなかった場合は、追試験によって単位の認定を受けることができる。この試験の点数は、実点の8割に計算される。

評価方法

・単位認定試験（学科・実技試験）の得点、授業・実験・実習態度、課題の提出内容を対象として評価し、90点以上を「秀」、80-89点を「優」、70-79点を「良」、60-69点を「可」、59点以下を「不可」（不合格）とする。

・GPA算出に当たっては、秀＝4.0、優＝3.0、良＝2.0、可＝1.0、不可＝0.0とする。

使用教科書名

教科書：「医療・看護系のための生物学」　参考書：講義中に紹介する　また、講義に用いるスライドは可能な限りプリントして配布する

高等学校で生物学を学んでこなかった学生は、あらかじめ高等学校の生物学の教科書　または参考書に目を通しておくことが望ましい

指導計画書

教科名	外国語（英語）
対象者	柔道整復トレーナー学科1年
期　間	後期　令和5年10月1日 ～ 令和6年3月31日
実務経験のある講師による指導	（ 全て ・ 一部 ・ なし ・ その他（　　））
講師名	ギュレメトヴ・ニコライ

指導内容及び指導方法

1. 指導の方法

講義・演習とする。

2. 授業の概要・目標・到達目標

以下について到達できるようにする。

＊音読を確実にし、速くできる（発音、アクセントなど）

＊英文や語句を正しく使うために、習得した語法や文法の知識を活用することができる。

＊質問をしたり、自分の考えを英語で述べることができる。

3. 授業計画（予定）

第1回	Self-introduction
第2回	Worksheet Activity:Friendship
第3回	Worksheet Activity:Happiness
第4回	Worksheet Activity:Relationships
第5回	Worksheet Activity:Answering Questions
第6回	DVD Viewing:Watch and Learn
第7回	DVD Viewing:Review Writing
第8回	SDGs:What are they and why are they important?
第9回	SDGs:Worksheet and group work
第10回	Writing Activity:Finish the Story
第11回	Writing Activity:Finish the Story2
第12回	DVD Viewing2:Watch and Learn
第13回	DVD Viewing2:Review Writing
第14回	Course Review,Worksheet activity
第15回	FINAL TEST】

修了認定の基準

・原則として、履修時間3分の2以上の出席時数をもって単位認定試験を受ける資格を与える。

・単位認定試験（学科・実技試験）、授業・実験・実習態度、および与えられた課題の合格をもって所定の単位を与える。

・原則として、単位認定試験の合格点は60点以上とする。

・不合格の場合は、期日を定めて再試験を行う。

・病気その他正当と認められる理由により、試験を受けられなかった場合は、追試験によって単位の認定を受けることができる。
この試験の点数は、実点の8割に計算される。

評価方法

・単位認定試験（学科・実技試験）の得点、授業・実験・実習態度、課題の提出内容を対象として評価し、90点以上を「秀」、80-89点を「優」、70-79点を「良」、60-69点を「可」、59点以下を「不可」（不合格）とする。

・GPA算出に当たっては、秀＝4.0、優＝3.0、良＝2.0、可＝1.0、不可＝0.0とする。

使用教科書名

特になし。毎回プリントを配る。

指導計画書

教 科 名	介護概論
対 象 者	柔道整復トレーナー学科1年
期　　間	前期　令和5年4月1日 ～ 令和5年9月30日
実務経験のある講師による指導	（ 全て ・ 一部 ・ なし ・ その他（　　））
講 師 名	中井　康貴

指導内容及び指導方法

1. 指導の方法

講義及び演習とする。

2. 授業の概要・目標・到達目標

目標・到達目標

2015年4月医療介護総合確保推進法による地域賦活ケアシステムがスタートした。
柔道整復師の機能訓練指導は柔道整復師が介護保険における機能訓練指導員として介護予防や自立支援に関わることが大きくなり、介護分野でも活躍されることが期待される。そのためにも、高齢者や障害者の生活（QOL含む）を理解したうえで、介護保険制度における理解を深めるとともに、高齢者の老化に伴う疾病や認知症、機能訓練指導員としての支援スキルを身につけることをねらいとする。

［授業全体の内容の概要］

・高齢者の生活を理解し、自立支援と介護予防について説明できる。
・介護保険制度を理解し説明できる。
・機能訓練指導員として支援方法を理解できる。
・高齢者の老化に伴う疾病や認知症を理解し説明できる。

3. 授業計画（予定）

第1回	人間の尊厳と自立の意義
第2回	生活・介護とは（QOLについて）
第3回	高齢者にみられる疾患の理解
第4回	認知症の理解
第5回	介護保険制度について①
第6回	介護保険制度について②
第7回	介護予防・日常生活支援総合事業
第8回	介護の過程
第9回	自立支援について
第10回	機能訓練指導員について①
第11回	機能訓練指導員について②
第12回	OQLを考える①　視聴覚教材
第13回	QOLを考える②　視聴覚教材
第14回	個別サービス計画の作成（事例を用いて）
第15回	総合学習　カンファレンス（事例を用いて）

修 了 認 定 の 基 準

・原則として、履修時間3分の2以上の出席時数をもって単位認定試験を受ける資格を与える。
・単位認定試験（学科・実技試験）、授業・実験・実習態度、および与えられた課題の合格をもって所定の単位を与える。
・原則として、単位認定試験の合格点は60点以上とする。
・不合格の場合は、期日を定めて再試験を行う。
・病気その他正当と認められる理由により、試験を受けられなかった場合は、追試験によって単位の認定を受けることができる。
この試験の点数は、実点の8割に計算される。

評 価 方 法

・単位認定試験（学科・実技試験）の得点、授業・実験・実習態度、課題の提出内容を対象として評価し、90点以上を「秀」、80-89点を「優」、70-79点を「良」、60-69点を「可」、59点以下を「不可」（不合格）とする。
・GPA算出に当たっては、秀＝4.0、優＝3.0、良＝2.0、可＝1.0、不可＝0.0とする。

使 用 教 科 書 名

柔道整復師と機能訓練指導-機能訓練指導員養成テキスト
編：遠藤英俊，細野　昇（2016年3月発刊），南江堂

指導計画書

教科名	解剖学Ⅰ
対象者	柔道整復トレーナー学科1年
期　間	前期・後期　令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日
実務経験のある講師による指導	（ 全て ・ 一部 ・ なし ・ その他（　　））
講師名	津山　新一郎

指導内容及び指導方法

1. 指導の方法

講義及び演習とする。

2. 授業の概要・目標・到達目標

目標・到達目標

人体の正常構造：特に運動器を中心にして脈管、神経系等の理解を目的とする。

講義内容

Ⅰ 人体解剖学序論：　科目学習の目的・意義、人体の区分、器官系統など

Ⅱ 解剖学総論　1細胞および組織　2人体の発生

Ⅲ 解剖学各論　1. 運動器系　1）骨格系　2）筋系

2. 神経系概論

3. 脈管系　1）心臓　2）血管系　3）リンパ系、免疫系

3. 授業計画（予定）

第1回	人体解剖学概説－科目の目的など、器官系統、人体の区分など	第1回	Ⅴ．　筋系　2．各論　頭部,体幹部（脊柱）
第2回	Ⅰ．　細胞	第2回	呼吸筋、腹部
第3回	Ⅱ．　組織	第3回	上肢（1）
第4回	Ⅲ．　人体の発生　概説	第4回	上肢（2）
第5回	Ⅳ．　骨格系（運動器１）1. 総論	第5回	下肢（1）
第6回	2各論　頭部（1）	第6回	下肢（2）
第7回	頭部（2）	第7回	Ⅵ．　神経系　概論　中枢神経
第8回	体幹部　脊柱	第8回	神経系　概論　末梢神経
第9回	体幹部　胸郭	第9回	Ⅶ．　脈管系　1. 総論
第10回	上肢　肩関節一上腕	第10回	2. 各論　心臓
第11回	上肢　前腕一手	第11回	動脈系（1）
第12回	下肢　股関節	第12回	動脈系（2）
第13回	下肢　大腿一下腿	第13回	静脈系（1）
第14回	下肢　足	第14回	静脈系（2）
第15回	Ⅴ．　筋系（運動器2）1. 総論	第15回	リンパ系、免疫系概説

修了認定の基準

・原則として、履修時間3分の2以上の出席時数をもって単位認定試験を受ける資格を与える。

・単位認定試験（学科・実技試験）、授業・実験・実習態度、および与えられた課題の合格をもって所定の単位を与える。

・原則として、単位認定試験の合格点は60点以上とする。

・不合格の場合は、期日を定めて再試験を行う。

・病気その他正当と認められる理由により、試験を受けられなかった場合は、追試験によって単位の認定を受けることができる。

この試験の点数は、実点の8割に計算される。

評価方法

・単位認定試験（学科・実技試験）の得点、授業・実験・実習態度、課題の提出内容を対象として評価し、90点以上を「秀」、80-89点を「優」、70-79点を「良」、60-69点を「可」、59点以下を「不可」（不合格）とする。

・GPA算出に当たっては、秀＝4.0、優＝3.0、良＝2.0、可＝1.0、不可＝0.0とする。

使用教科書名

岸　清・石塚　寛編「解剖学」（医歯薬出版）

指導計画書

教科名	生理学Ⅰ
対象者	柔道整復トレーナー学科1年
期　間	前期・後期　令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日
実務経験のある講師による指導	（ 全て ・ 一部 ・ なし ・ その他（　　））
講師名	渡邉　祐奈

指導内容及び指導方法

1. 指導の方法

講義及び演習とする。

2. 授業の概要・目標・到達目標

・生理学は人体の基本的機能・メカニズムを学ぶ学問であり、
人体の機能を学ぶためには、化学的、生物学的、物理学的、また、
解剖学的知識を用いたアプローチを行う必要がある。

・柔道整復師を目指す際に正常な人間のしくみを学ぶことは
治療を行うにあたり必要不可欠であり、臨床へも通じ重要なことである。

・生理学を通じて、柔道整復師になるための基礎的知識、論理的思考、
医療人としての人間性の形成の一助となることを目的とする。

3. 授業計画（予定）

第1回	1. 生理学とは ①	第1回	15. 体温とその調節 ①
第2回	〃 ②	第2回	〃 ②
第3回	13. 14栄養と代謝　消化と吸収 ①	第3回	〃 ③
第4回	〃 ②	第4回	8. 血液 ①
第5回	〃 ③	第5回	〃 ②
第6回	〃 ④	第6回	〃 ③
第7回	〃 ⑤	第7回	3. 神経の生理 ①
第8回	2. 4筋の生理　運動の生理 ①	第8回	〃 ②
第9回	〃 ②	第9回	〃 ③
第10回	〃 ③	第10回	〃 ④
第11回	〃 ④	第11回	〃 ⑤
第12回	〃 ⑤	第12回	〃 ⑥
第13回	まとめ ①	第13回	〃 ⑦
第14回	〃 ②	第14回	〃 ⑧
第15回	〃 ③	第15回	〃 ⑨

修了認定の基準

・原則として、履修時間3分の2以上の出席時数をもって単位認定試験を受ける資格を与える。
・単位認定試験（学科・実技試験）、授業・実験・実習態度、および与えられた課題の合格をもって所定の単位を与える。
・原則として、単位認定試験の合格点は60点以上とする。
・不合格の場合は、期日を定めて再試験を行う。
・病気その他正当と認められる理由により、試験を受けられなかった場合は、追試験によって単位の認定を受けることができる。
この試験の点数は、実点の8割に計算される。

評価方法

・単位認定試験（学科・実技試験）の得点、授業・実験・実習態度、課題の提出内容を対象として評価し、90点以上を「秀」、
80-89点を「優」、70-79点を「良」、60-69点を「可」、59点以下を「不可」（不合格）とする。
・GPA算出に当たっては、秀＝4.0、優＝3.0、良＝2.0、可＝1.0、不可＝0.0とする。

使用教科書名

全国柔道整復学校協会監修　根来英雄、貴邑冨久子著
生理学　改訂第3版　南江堂

指導計画書

教科名	柔道Ⅰ
対象者	柔道整復トレーナー学科1年
期　間	前期・後期　令和5年4月1日　～　令和6年3月31日
実務経験のある講師による指導	（ 全て ・ 一部 ・ なし ・ その他（　　））
講師名	三浦　尚之・領家大貴・堀之内　俊隆

指導内容及び指導方法

1. 指導の方法

実技とする。

2. 授業の概要・目標・到達目標

柔道は直接的な格闘形式の対人スポーツとしての特性を持つものである。したがって、柔道では基本的動作を確実に身に付け、対人的技能による攻防の技能を習得させ、技能の程度に応じた練習や試合ができるようにする。また、伝統的な行動の仕方を身につけるとともに規則やマナーを守り、相手を尊重し自己の最高の能力を発揮し、公正な態度で技能を競い合い、楽しさと喜びが味わえるような練習や試合ができるようにする。

①柔道の基本動作や対人技能を身につける。
②相手を尊重し、礼儀正しく行うとともに、自己の技能の程度に応じて目標を決め、互いに協力して自主的、計画的に練習できるようにする。
③練習場の安全と清潔を確かめるなど、健康・安全に留意する態度がとれるようにする。
④昇段審査や認定実技審査に向けて目標を持って取り組ませる。

3. 授業計画（予定）

第1回	柔道の特性、柔道衣の名称・扱い方、学習上の決まりの確認	第1回	既習技の復習
第2回	礼法・座り方と立ち方、姿勢と組み方、嘉納治五郎の精神	第2回	連続・連絡技の練習
第3回	進退動作…歩み足、継ぎ足による移動	第3回	約束練習
第4回	崩しと体捌き…基本的な崩しの方向、進退動作、体捌きによる崩し	第4回	固め技の基本動作…基本的な姿勢と移動の仕方
第5回	受身…後ろ受身、横受身、前受身、前回り受身	第5回	固め技　抑え技の練習…袈裟固め・肩固め
第6回	体捌きによる投げから受身の練習	第6回	〃　〃　横四方固め・上四方固め・縦四方固め
第7回	投げ技の練習　・支え釣り込み足　・膝車	第7回	〃　絞め技の練習…十字締め・送り襟締め・片羽締め・裸締め
第8回	〃　・大腰　・一本背負い	第8回	〃　関節技の練習…腕がらみ・腕ひしぎ十字固め
第9回	〃　・背負い投げ	第9回	固め技の総合練習（復習）
第10回	〃　・釣り込み腰	第10回	投げ技及び固め技の約束練習
第11回	〃　・払い腰	第11回	〃
第12回	〃　・小内刈り　・大内刈り	第12回	投の形　手技…浮落
第13回	〃　・大外刈り	第13回	〃　手技…背負投
第14回	技の連絡変化	第14回	〃　手技…肩車
第15回	既習技を使っての約束練習	第15回	投の形　手技の練習（復習）

修了認定の基準

・原則として、履修時間3分の2以上の出席時数をもって単位認定試験を受ける資格を与える。
・単位認定試験（学科・実技試験）、授業・実験・実習態度、および与えられた課題の合格をもって所定の単位を与える。
・原則として、単位認定試験の合格点は60点以上とする。
・不合格の場合は、期日を定めて再試験を行う。
・病気その他正当と認められる理由により、試験を受けられなかった場合は、追試験によって単位の認定を受けることができる。
この試験の点数は、実点の8割に計算される。

評価方法

・単位認定試験（学科・実技試験）の得点、授業・実験・実習態度、課題の提出内容を対象として評価し、90点以上を「秀」、80-89点を「優」、70-79点を「良」、60-69点を「可」、59点以下を「不可」（不合格）とする。
・GPA算出に当たっては、秀＝4.0、優＝3.0、良＝2.0、可＝1.0、不可＝0.0とする。

使用教科書名

県柔道会「柔道の手引き」、高校生の柔道、プリント、ビデオ

指導計画書

教科名	基礎柔道整復学Ⅰ
対象者	柔道整復トレーナー学科1年
期　間	前期・後期　令和5年4月1日　～　令和6年3月31日
実務経験のある講師による指導	（全て）・一部・なし・その他（　　）
講師名	坂元　敏朗
実務履歴	整骨院　他　柔道整復師

指導内容及び指導方法

1. 指導の方法

講義及び演習とする。

2. 授業の概要・目標・到達目標

総論理論

・柔道整復術および柔道整復師の沿革（P2～P15）

・総論　人体に加わる力、損傷時に加わる力（P12～P15）

・骨折の合併症（P34～P39）

・1－2　上肢の骨折　A.鎖骨骨折～E.上腕骨遠位部の骨折（P174～P202）

3. 授業計画（予定）

第1回	柔道整復師業界の状況及び保険について	第1回	肩甲帯の解剖
第2回	沿革（医療の起源　他）	第2回	鎖骨骨折①
第3回	沿革（柔道整復術及び法の成立）	第3回	鎖骨骨折②
第4回	人体に加わる力・負傷時に加わる力	第4回	B. 肩甲骨骨折①
第5回	骨折の基礎	第5回	B. 肩甲骨骨折②
第6回	骨折の併発症	第6回	C. 上腕骨近位部の骨折　1　骨頭骨折　2　解剖頚骨折
第7回	骨折の続発症	第7回	上腕骨外科頚骨折①
第8回	後遺症、過剰仮骨形成と偽関節	第8回	上腕骨外科頚骨折②
第9回	変形治癒と骨萎縮	第9回	4　大結節単独骨折　5　小結節単独骨折
第10回	複合性局所疼痛症候群と開放性骨折		6　近位骨端線離開
第11回	阻血性骨壊死と開放性骨折	第10回	上腕骨骨幹部骨折①
第12回	関節拘縮と関節強直	第11回	上腕骨骨幹部骨折②
第13回	外傷性骨化性筋炎	第12回	上腕骨顆上骨折①
第14回	コンパートメント症候群とフォルクマン拘縮	第13回	上腕骨顆上骨折②
第15回	まとめ	第14回	上腕骨外顆骨折
		第15回	上腕骨内側上顆骨折、ジェフェリー骨折

修了認定の基準

・原則として、履修時間3分の2以上の出席時数をもって単位認定試験を受ける資格を与える。

・単位認定試験（学科・実技試験）、授業・実験・実習態度、および与えられた課題の合格をもって所定の単位を与える。

・原則として、単位認定試験の合格点は60点以上とする。

・不合格の場合は、期日を定めて再試験を行う。

・病気その他正当と認められる理由により、試験を受けられなかった場合は、追試験によって単位の認定を受けることができる。

この試験の点数は、実点の8割に計算される。

評価方法

・単位認定試験（学科・実技試験）の得点、授業・実験・実習態度、課題の提出内容を対象として評価し、90点以上を「秀」、80-89点を「優」、70-79点を「良」、60-69点を「可」、59点以下を「不可」（不合格）とする。

・GPA算出に当たっては、秀＝4.0、優＝3.0、良＝2.0、可＝1.0、不可＝0.0とする。

使用教科書名

柔道整復学理論編・実技編
標準整形外科
その他関係書籍

指導計画書

教科名	基礎柔道整復学Ⅱ
対象者	柔道整復トレーナー学科1年
期　間	前期・後期　令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日
実務経験のある講師による指導	(全て)・一部・なし・その他(　　))
講師名	今原 清和
実務履歴	整骨院 他　柔道整復師

指導内容及び指導方法

1. 指導の方法

講義及び演習とする。

2. 授業の概要・目標・到達目標

筋・腱・神経の基礎的な機能と構造を学び、それらの損傷の分類や治癒機序についても学習する。
そして、柔道整復師が行う外傷の保存療法についての理解も深める。
後期では、肩関節部の軟部組織について学習する。
臨床の現場で遭遇することが多い外傷になるので、部位の解剖・機能を理解し、適切に対応できる能力を身に付ける。

3. 授業計画(予定)

第1回	オリエンテーション	第1回	上肢軟部組織損傷　肩の解剖(骨・筋)
第2回	4－3　筋の損傷　筋の解剖・生理	第2回	肩の解剖(神経)
第3回	A.筋の構造と機能　B.筋損傷と概説	第3回	小テスト①　1.筋、腱の損傷　a.腱板損傷
第4回	C.筋損傷の分類　D.筋損傷の症状	第4回	b.上腕二頭筋腱損傷
第5回	E.筋損傷の治癒機序　F.筋損傷の予後		
第6回	小テスト①　4-4.腱の損傷　A.腱の構造と機能	第5回	2.スポーツ損傷　a.ベネット損傷
第7回	B.腱損傷の概説　C.腱損傷の分類	第6回	b.SLAP損傷
第8回	D.腱損傷の症状　E.腱損傷の治癒機序	第7回	c.肩峰下インピンジメント症候群
第9回	小テスト②　4-5.末梢神経の損傷　A.神経の構造と機能	第8回	d.リトルリーガー肩
第10回	B.神経損傷の概説　C.神経損傷の分類	第9回	3.不安定症　a.動揺性肩関節症
第11回	D.抹消神経損傷の症状　E.抹消神経損傷の治癒過程	第10回	小テスト②　4.末梢神経障害　a.肩甲上神経絞扼障害
第12回	小テスト④　3.痛みの基礎　A.痛みの種類	第11回	b.腋窩神経絞扼障害
	B.痛みのメカニズム(運動器)	第12回	5.その他の疾患
第13回	C.急性通と慢性通　D.痛みの評価　E.痛みへのアプローチ	第13回	a.五十肩(冷結肩)
第14回	小テスト⑤　復習	第14回	小テスト③　復習
第15回	まとめ	第15回	まとめ

修了認定の基準

・原則として、履修時間3分の2以上の出席時数をもって単位認定試験を受ける資格を与える。
・単位認定試験(学科・実技試験)、授業・実験・実習態度、および与えられた課題の合格をもって所定の単位を与える。
・原則として、単位認定試験の合格点は60点以上とする。
・不合格の場合は、期日を定めて再試験を行う。
・病気その他正当と認められる理由により、試験を受けられなかった場合は、追試験によって単位の認定を受けることができる。
この試験の点数は、実点の8割に計算される。

評価方法

・単位認定試験(学科・実技試験)の得点、授業・実験・実習態度、課題の提出内容を対象として評価し、90点以上を「秀」、80-89点を「優」、70-79点を「良」、60-69点を「可」、59点以下を「不可」(不合格)とする。
・GPA算出に当たっては、秀＝4.0、優＝3.0、良＝2.0、可＝1.0、不可＝0.0とする。

使用教科書名

柔道整復学　理論編
標準整形学・最新整形外科大系等

指導計画書

教 科 名	基礎柔道整復学Ⅲ
対 象 者	柔道整復トレーナー学科1年
期　　間	前期・後期　令和5年4月1日　～　令和6年3月31日
実務経験のある講師による指導	（ 全て ）・ 一部 ・ なし ・ その他（　　）
講 師 名	三浦　尚之
実務履歴	整骨院　他　　柔道整復師

指導内容及び指導方法

1. 指導の方法

講義及び演習とする。

2. 授業の概要・目標・到達目標

関節構造と関節損傷および脱臼について理解させ、また解剖学的な構造をイメージさせて、
基礎的知識を身につける。また、肘関節部の損傷を総合的に捉えて、
症状を十分に把握させ、鑑別判断力を身につけさせる。

3. 授業計画（予定）

第1回	関節の解剖	第1回	肘部解剖
第2回	関節損傷の概要	第2回	肘靭帯損傷
第3回	関節損傷の分類	第3回	野球肘
第4回	関節構成組織の損傷①	第4回	テニス肘
第5回	関節構成組織の損傷②	第5回	絞扼性橈骨神経麻痺
第6回	関節構成組織の損傷③	第6回	絞扼性正中神経麻痺
第7回	関節構成組織の損傷④	第7回	絞扼性尺骨神経麻痺
第8回	脱臼の定義と概説	第8回	紋扼性神経障害のまとめ
第9回	脱臼の分類①	第9回	前腕コンパートメント症候群　後外側不安定症
第10回	脱臼の分類②	第10回	tfcc損傷　手指靭帯損傷
第11回	脱臼の症状	第11回	ロッキングフィンガー　キーンベック病
第12回	脱臼の合併症	第12回	マーデルング変形　デュピトラン拘縮
第13回	脱臼の整復障害	第13回	ドケルバン病　ばね指
第14回	脱臼の経過と予後	第14回	ボタン穴変形　スワンネック変形
第15回	まとめ	第15回	まとめ

修 了 認 定 の 基 準

・原則として、履修時間3分の2以上の出席時数をもって単位認定試験を受ける資格を与える。
・単位認定試験（学科・実技試験）、授業・実験・実習態度、および与えられた課題の合格をもって所定の単位を与える。
・原則として、単位認定試験の合格点は60点以上とする。
・不合格の場合は、期日を定めて再試験を行う。
・病気その他正当と認められる理由により、試験を受けられなかった場合は、追試験によって単位の認定を受けることができる。
この試験の点数は、実点の8割に計算される。

評 価 方 法

・単位認定試験（学科・実技試験）の得点、授業・実験・実習態度、課題の提出内容を対象として評価し、90点以上を「秀」、
80-89点を「優」、70-79点を「良」、60-69点を「可」、59点以下を「不可」（不合格）とする。
・GPA算出に当たっては、秀＝4.0、優＝3.0、良＝2.0、可＝1.0、不可＝0.0とする。

使 用 教 科 書 名

柔道整復学　理論編
柔道整復学　実技編
その他関係書籍

指導計画書

教科名	基礎柔道整復学Ⅳ
対象者	柔道整復トレーナー学科1年
期　間	前期・後期　令和5年4月1日　～　令和6年3月31日
実務経験のある講師による指導	（全て）・一部・なし・その他（　　）
講師名	田口　賢太郎
実務履歴	整骨院　他　柔道整復師

指導内容及び指導方法

1. 指導の方法

講義及び演習とする。

2. 授業の概要・目標・到達目標

骨折の基礎となる総論と前腕部の損傷（骨折、軟部組織損傷）の範囲である。
国家試験で必須問題の中心として数多くの問題が出題される。
国家試験として重要となるだけでなく、柔道整復師として「骨折総論」をしっかりと捉えていなければならない。
1年生は医療科目を初めて学ぶ学生も多いので、細かく丁寧に何回も復習を行う必要があると感じます。
授業、毎回の小テスト、次回小テストを返し答え合わせと復習をします。
そして「骨折総論」を通して学んだことを骨折の前腕部の損傷各論へと結びつけてさらに理解を深めることを目的とする。

3. 授業計画（予定）

第1回	骨の形態と機能	第1回	前腕近位部の機能と解剖
第2回	骨の性状による分類	第2回	橈骨近位端部骨折、成人・小児の違い
第3回	骨損傷の程度による分類	第3回	肘頭骨折の症状、合併症、整復・固定法
第4回	骨折の方向・数による分類	第4回	前腕部の損傷　A機能と解剖
第5回	骨折部と外創との交通の有無による分類	第5回	橈骨骨幹部部骨折
第6回	外力の働いた部位・働き方による分類	第6回	ガレアジ骨折、尺骨骨幹部骨折
第7回	骨折の部位・経過による分類	第7回	モンテギア骨折の分類、固定法、予後①
第8回	骨折時の一般外傷症状	第8回	モンテギア骨折の分類、固定法、予後②
第9回	骨折時の固有症状	第9回	橈・尺両骨骨幹部骨折の発生機序、転位、後遺症①
第10回	骨折時の全身症状	第10回	橈・尺両骨骨幹部骨折の発生機序、転位、後遺症②
第11回	小児骨損傷の特徴	第11回	橈・尺両骨骨幹部骨折の発生機序、転位、後遺症③
第12回	高齢者骨損傷の特徴	第12回	コーレス骨折の発生機序、症状
第13回	骨損傷の癒合日数・治癒経過	第13回	コーレス骨折の発生機序、症状
第14回	骨損傷の予後	第14回	コーレス骨折の整復・固定法、合併症
第15回	骨損傷の治癒に影響を与える因子	第15回	スミス骨折、橈骨遠位骨端線離開
			背側・掌側バートン骨折の特徴

修了認定の基準

・原則として、履修時間3分の2以上の出席時数をもって単位認定試験を受ける資格を与える。
・単位認定試験（学科・実技試験）、授業・実験・実習態度、および与えられた課題の合格をもって所定の単位を与える。
・原則として、単位認定試験の合格点は60点以上とする。
・不合格の場合は、期日を定めて再試験を行う。
・病気その他正当と認められる理由により、試験を受けられなかった場合は、追試験によって単位の認定を受けることができる。
この試験の点数は、実点の8割に計算される。

評価方法

・単位認定試験（学科・実技試験）の得点、授業・実験・実習態度、課題の提出内容を対象として評価し、90点以上を「秀」、80-89点を「優」、70-79点を「良」、60-69点を「可」、59点以下を「不可」（不合格）とする。
・GPA算出に当たっては、秀＝4.0、優＝3.0、良＝2.0、可＝1.0、不可＝0.0とする。

使用教科書名

柔道整復学理論編、実技編　南江堂
神中整形外科学　南山堂、図解関節・運動器の機能解剖　協同医書
図解整形外科学診察の進め方　医学書院、
カパンディ関節の生理学　医歯薬出版、スポーツ外傷学　医歯薬出版

指導計画書

教 科 名	臨床柔道整復学Ⅰ
対 象 者	柔道整復トレーナー学科1年
期　　間	前期・後期　令和5年4月1日　～　令和6年3月31日
実務経験のある講師による指導	（ 全て ）・ 一部 ・ なし ・ その他（　　））
講 師 名	今原　清和
実務履歴	整骨院　他　　柔道整復師

指導内容及び指導方法

1. 指導の方法

講義及び演習とする。

2. 授業の概要・目標・到達目標

総論理論

・概説（P2～P10）・総論（P12～P19）・診察（P83～P90）

・治療法　①整復法（P88～P95）

②固定法（P95～P101）

③後療法（P101～P131）手技療法・運動療法・物理療法

物理療法機器の取扱い（P109～P131）

④指導管理（P131～P136）

3. 授業計画（予定）

第1回	5.診察　（P83 ～ P87）	第1回	手根骨部の解剖
第2回	6.治療法　整復法　徒手整復時の配慮　（P88～P90）	第2回	Ⅰ．手根骨部の骨折
第3回	整復法（骨折　P90～P91）	第3回	1.舟状骨骨折
第4回	整復法（脱臼　P92～P93	第4回	2.三角骨骨折　3.有鈎骨骨折
第5回	整復法（徒手整復後の確認と配慮　P93）	第5回	小テスト①　4.豆状骨骨折　5.その他の骨折
	（軟部組織損傷の初期処置　P93）	第6回	手部の解剖
第6回	固定法（P95～P101）	第7回	J.中手骨部の骨折　1.中手骨骨頭部骨折
第7回	後療法（P101～P109）		2中手骨頚部骨折
第8回	後療法（P101～P109）	第8回	3.中手骨骨幹部骨折
第9回	後療法（P101～P109）	第9回	4.第1中手骨基部骨折
第10回	物理療法（P109～P131）	第10回	5.第5中手骨基部骨折
第11回	物理療法（P109～P131）	第11回	小テスト②　K.指骨の骨折　1.基節骨骨折
第12回	物理療法（P109～P131）	第12回	2.中節骨骨折
第13回	6-4　指導管理(P131～P136)	第13回	3.末節骨骨折
第14回	7 外傷予防(P137～P145)	第14回	小テスト③　4.マレットフィンガー
第15回	まとめ	第15回	まとめ

修 了 認 定 の 基 準

・原則として、履修時間3分の2以上の出席時数をもって単位認定試験を受ける資格を与える。

・単位認定試験（学科・実技試験）、授業・実験・実習態度、および与えられた課題の合格をもって所定の単位を与える。

・原則として、単位認定試験の合格点は60点以上とする。

・不合格の場合は、期日を定めて再試験を行う。

・病気その他正当と認められる理由により、試験を受けられなかった場合は、追試験によって単位の認定を受けることができる。

この試験の点数は、実点の8割に計算される。

評 価 方 法

・単位認定試験（学科・実技試験）の得点、授業・実験・実習態度、課題の提出内容を対象として評価し、90点以上を「秀」、80-89点を「優」、70-79点を「良」、60-69点を「可」、59点以下を「不可」（不合格）とする。

・GPA算出に当たっては、秀＝4.0、優＝3.0、良＝2.0、可＝1.0、不可＝0.0とする。

使 用 教 科 書 名

柔道整復学理論編・実技編、標準整形外科、その他関係書籍

指導計画書

教科名	柔道整復実技Ⅰ
対象者	柔道整復トレーナー学科1年
期　間	前期・後期　令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日
実務経験のある講師による指導	(全て)・一部・なし・その他(　　)
講師名	岡元　彩香
実務履歴	整形外科　他　柔道整復師

指導内容及び指導方法

1. 指導の方法

講義及び演習とする。

2. 授業の概要・目標・到達目標

医療従事者にふさわしい身だしなみ、行動、態度を身につける。
固定の目的や種類、肢位について理解を深める。
包帯の扱い方・巻き方について基礎を学ぶ。
様々な硬性材料等を用いた固定を学び、修得する。
患者として固定された時の感触等も実感し、患者の気持ちも学ぶ。
臨床実習にて介助を行う際、現場での必要な技術と知識を身につけたかどうかの
臨床実習前試験を行う。

3. 授業計画(予定)

第1回	1.固定の目的・範囲・肢位　2.固定材料の種類	第1回	後期説明　前期復習
第2回	3.上手な巻軸帯の巻き方と注意事項	第2回	7.部位別包帯法　M背十字帯　前期復習
	4.巻軸帯の巻き戻し	第3回	9.三角巾による提肘　10.さらしによる固定
第3回	5.基本包帯	第4回	7. 部位別包帯法　A頭部・顔面部包帯
第4回	5.基本包帯	第5回	11-B金属副子(クラーメル金属副子)作成
第5回	6.冠名包帯法(デゾー包帯)	第6回	11-B金属副子(クラーメル金属副子)作成・練習
第6回	6.冠名包帯法(ヴェルポー包帯)	第7回	11-B金属副子(クラーメル金属副子)練習
第7回	6.冠名包帯法(ジュール包帯)	第8回	11-Cアルミ副子(アルフェンス)作成
第8回	6.冠名包帯法の復習　小テスト	第9回	11-Cアルミ副子(アルフェンス)作成・練習
第9回	7.部位別包帯法　A頭部・顔面部	第10回	小テスト　前半練習
第10回	7.部位別包帯法　B肩部　C肘部	第11回	11-Dギプスと吸水硬化性キャスト材
第11回	7.部位別包帯法　D前腕部　E手関節部	第12回	11-A厚紙副子作成
	F手指部	第13回	11-A厚紙副子練習＜足関節の固定＞
第12回	7.部位別包帯法　G股関節部　H大腿部	第14回	11-G絆創膏固定・テーピング
第13回	7.部位別包帯法　I膝関節部　J下腿部	第15回	まとめ
第14回	7.部位別包帯法　K足関節部　L足指部		
第15回	全体の復習　小テスト		

修了認定の基準

・原則として、履修時間3分の2以上の出席時数をもって単位認定試験を受ける資格を与える。
・単位認定試験(学科・実技試験)、授業・実験・実習態度、および与えられた課題の合格をもって所定の単位を与える。
・原則として、単位認定試験の合格点は60点以上とする。
・不合格の場合は、期日を定めて再試験を行う。
・病気その他正当と認められる理由により、試験を受けられなかった場合は、追試験によって単位の認定を受けることができる。
この試験の点数は、実点の8割に計算される。

評価方法

・単位認定試験(学科・実技試験)の得点、授業・実験・実習態度、課題の提出内容を対象として評価し、90点以上を「秀」、80-89点を「優」、70-79点を「良」、60-69点を「可」、59点以下を「不可」(不合格)とする。
・GPA算出に当たっては、秀＝4.0、優＝3.0、良＝2.0、可＝1.0、不可＝0.0とする。

使用教科書名

包帯固定学 、柔道整復学理論 、解剖学

指導計画書

教 科 名	臨床実習Ⅰ
対 象 者	柔道整復トレーナー学科1年
期　　間	後期　　令和5年10月1日　～　令和6年3月31日
実務経験のある講師による指導	（ 全て ）・ 一部 ・ なし ・ その他（　　））
講 師 名	今林　亮平、岡元　彩香、領家　大貴

実務履歴	今林　亮平　　クリニック　他　　柔道整復師
	岡元　彩香　　整形外科　他　　柔道整復師
	領家　大貴　　整骨院　　他　　柔道整復師

指導内容及び指導方法

1. 指導の方法

実習及び実技

2. 授業の概要・目標・到達目標

附属接骨院にて臨床実習を行う。接骨院がどのように運営されているか、
どのように患者を診察しているかなど接骨院の業務について学ぶ。
また、療養費についても理解を深めることも目的とする。
救護所での外傷に対する処置や行動・対応について学ぶことを目的とする。

①臨床実習の心得、患者接遇マナー
②医療機器の操作、体験、禁忌について
③保険請求手順
④診察法　初検患者の対応法
　患者の人格を尊重する、患者への共感的な態度、訴えやすい環境の形成
　検脈、四肢長、周径の計測
⑤診察法　初検患者の対応法
　関節可動域、反射
⑥頚部　各疾患の説明　実践の際疾患の設定　診察法(実践)　施術録の記入とパソコン処理
⑦腰部　各疾患の説明　実践の際疾患の設定　診察法(実践)　施術録の記入とパソコン処理
⑧施術録の記載方法
⑨足関節　診察法　RICE処置　固定法　テーピング
⑩レッドコード　足関節のテーピング

修 了 認 定 の 基 準

・原則として、履修時間3分の2以上の出席時数をもって単位認定試験を受ける資格を与える。
・単位認定試験（学科・実技試験）、授業・実験・実習態度、および与えられた課題の合格をもって所定の単位を与える。
・原則として、単位認定試験の合格点は60点以上とする。
・不合格の場合は、期日を定めて再試験を行う。
・病気その他正当と認められる理由により、試験を受けられなかった場合は、追試験によって単位の認定を受けることができる。
この試験の点数は、実点の8割に計算される。

評 価 方 法

・単位認定試験（学科・実技試験）の得点、授業・実験・実習態度、課題の提出内容を対象として評価し、90点以上を「秀」、
80-89点を「優」、70-79点を「良」、60-69点を「可」、59点以下を「不可」（不合格）とする。
・GPA算出に当たっては、秀＝4.0、優＝3.0、良＝2.0、可＝1.0、不可＝0.0とする。

使 用 教 科 書 名

柔道整復学　理論編　改訂第5版
関係法規

指導計画書

教 科 名	基礎医学特論
対 象 者	柔道整復トレーナー学科1年
期　　間	前期・後期　　令和5年4月1日　～　令和6年3月31日
実務経験のある講師による指導	（ 全て ・ 一部 ・ なし ・ その他（　　））
講 師 名	岡元　彩香・領家　大貴

指導内容及び指導方法

1. 指導の方法

講義及び演習とする。

2. 授業の概要・目標・到達目標

基礎となる解剖学概論を中心に、人体の機能解剖（骨・関節・筋・靭帯・血管・神経など）を学び、医療従事者としての知識を習得する。

3. 授業計画（予定）

第1回	解剖学概論	第1回	前期復習
第2回	細胞について	第2回	上肢（肩関節周囲）の筋名・靭帯名について
第3回	組織について	第3回	上肢（肘関節周囲）の筋名・靭帯名について
第4回	発生について	第4回	上肢（手・指関節周囲）の筋名・靭帯名について
第5回	骨の構造について	第5回	下肢（骨盤骨周囲）の筋名・靭帯名について
第6回	上肢（肩関節周囲）の骨について	第6回	下肢（膝関節周囲）の筋名・靭帯名について
第7回	上肢（肘関節周囲）の骨について	第7回	下肢（足関節周囲）の筋名・靭帯名について
第8回	上肢（手・指関節周囲）の骨について	第8回	筋のまとめ
第9回	下肢（骨盤骨周囲）の骨について	第9回	循環器総論(血管の種類・血液の流れ)
第10回	下肢（膝関節周囲）の骨について	第10回	心臓の構造
第11回	下肢（足関節周囲）の骨について	第11回	上肢の血管
第12回	頭部（頭蓋骨）について	第12回	下肢の血管
第13回	体幹（脊柱の構造と靭帯）について	第13回	神経系総論（構造・機能）
第14回	体幹（胸郭の構造）について	第14回	中枢神経と末梢神経について
第15回	骨のまとめ	第15回	後期まとめ

修 了 認 定 の 基 準

・原則として、履修時間3分の2以上の出席時数をもって単位認定試験を受ける資格を与える。
・単位認定試験（学科・実技試験）、授業・実験・実習態度、および与えられた課題の合格をもって所定の単位を与える。
・原則として、単位認定試験の合格点は60点以上とする。
・不合格の場合は、期日を定めて再試験を行う。
・病気その他正当と認められる理由により、試験を受けられなかった場合は、追試験によって単位の認定を受けることができる。
この試験の点数は、実点の8割に計算される。

評 価 方 法

・単位認定試験（学科・実技試験）の得点、授業・実験・実習態度、課題の提出内容を対象として評価し、90点以上を「秀」、80-89点を「優」、70-79点を「良」、60-69点を「可」、59点以下を「不可」（不合格）とする。
・GPA算出に当たっては、秀＝4.0、優＝3.0、良＝2.0、可＝1.0、不可＝0.0とする。

使 用 教 科 書 名

柔道整復学・解剖学の教科書を中心に標準整形外科学などを含めて授業を行う

指導計画書

教 科 名	トレーニング指導論Ⅰ
対 象 者	柔道整復トレーナー学科1年
期　　間	前期・後期　令和5年4月1日　～　令和6年3月31日
実務経験のある講師による指導	（ 全て ・ 一部 ・ なし ・ その他（　　））
講 師 名	三浦尚之・今林亮平・領家大貴・大田勝也・新納幸喜・和田　杏子

指導内容及び指導方法

1. 指導の方法

講義及び演習、実技とする。

2. 授業の概要・目標・到達目標

トレーニング指導者になるための知識と実践的能力を身につけることを目指す。

3. 授業計画（予定）

第1回	体力学総論（体力の概念、運動の有益性に関する内容体力学総論）	第1回	スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成
		第2回	スピード向上トレーニングの実際
第2回	トレーニング指導者の役割	第3回	〃
第3回	運動生理学	第4回	プライオメトリクス
第4回	運動生理学	第5回	プライオメトリクス
第5回	トレーニング計画の立案（総論）	第6回	バイオメカニクス（1）基礎理論
第6回	ウォームアップとクールダウン・柔軟性向上	第7回	バイオメカニクス（2）スポーツ及びトレーニング動作のバイオメカニクス
	トレーニングの理論とプログラム作成		
第7回	ウォームアップとクールダウン・柔軟性向上	第8回	〃
	トレーニングの実際	第9回	〃
第8回	〃	第10回	運動と医学（1）救急処置法
第9回	筋力トレーニングのプログラム作成	第11回	運動と医学（2）スポーツ選手の整形外科的障害と予防
第10回	〃		
第11回	筋力トレーニングの実際	第12回	運動と医学（3）生活習慣病とその予防
第12回	筋力トレーニングの実際	第13回	運動指導の科学
第13回	筋力トレーニングの実際	第14回	傷害の受傷から復帰までのトレーニングとプログラム
第14回	筋力トレーニングの実際	第15回	〃
第15回	筋力トレーニングの実際		

修 了 認 定 の 基 準

・原則として、履修時間3分の2以上の出席時数をもって単位認定試験を受ける資格を与える。
・単位認定試験（学科・実技試験）、授業・実験・実習態度、および与えられた課題の合格をもって所定の単位を与える。
・原則として、単位認定試験の合格点は60点以上とする。
・不合格の場合は、期日を定めて再試験を行う。
・病気その他正当と認められる理由により、試験を受けられなかった場合は、追試験によって単位の認定を受けることができる。
この試験の点数は、実点の8割に計算される。

評 価 方 法

・単位認定試験（学科・実技試験）の得点、授業・実験・実習態度、課題の提出内容を対象として評価し、90点以上を「秀」、80-89点を「優」、70-79点を「良」、60-69点を「可」、59点以下を「不可」（不合格）とする。
・GPA算出に当たっては、秀＝4.0、優＝3.0、良＝2.0、可＝1.0、不可＝0.0とする。

使 用 教 科 書 名

トレーニング指導者テキスト　理論編
トレーニング指導者テキスト　実践編
トレーニング指導者テキスト　実技編
認定トレーニング指導者　認定試験　模擬問題集